

【院長挨拶】

この冬は12月初めから例年になく厳しい寒さで、感染症の流行も懸念されています。2017年を振り返ってみますと、年初には米新大統領の就任があり、北朝鮮の核ミサイル問題をはじめ緊迫した一年でありましたが、先の見えない緊張は今年も続くようです。一方2018年は医療・介護に大きな波が押し寄せてきます。そんな中でこそ院内では医療チームの中で一人ひとりの果たすべき役割を今一度振り返り、院外では他施設・救急・行政との間で相互の役割を理解し、地域のネットワークを緊密にしていくことが必要と感じています。

さて病院では現在基幹型の二年次研修医3名が三月には修了の見込みで、それぞれ新専門医制度のもとで専攻医として後期研修を開始します。基幹型一年次の3名は二年目となり、四月から来る新研修医をリードしていくこととなります。また協力型研修医は現在の3名と入れ替わり、四月から新たに5名が入職の予定です。このような若手医師の存在は病院にも活気を与えてくれ、様々な波及効果が見られます。これからは医師のみならずコメディカルを含めて、「人」を育てていく組織としての底力が我々に求められています。



寺柿 政和

【電子カルテ更新】

当院では、効率的かつ安全な医療を提供できますよう電子カルテシステムの大規模な入れ替えを行います。今回の更新では、NEC・MegaOak NEMRから最新版のMegaOak HRに移行いたします。このVersionでは、医師の指示出し～看護師の指示受け・実施が、全て電子でやり取りできるようになります。また今回は、生理、病理、リハビリ、地域連携、医療安全、感染管理システムなどの部門系も新規導入し業務の効率性を強化いたしました。ハードウェア的には、100台の携帯端末を新たに導入し、各現場へ配置。これで患者さんへ提供されるモノの3点認証が出来るようになります。また、不測の電子カルテ障害に備え、電子カルテ参照サーバーも導入いたしました。これで有事の際でも過去の診療内容が参照できるようになります。このように安全面も強化いたしました。

この入れ替え作業を平成30年2月10日に実施させていただきます。これに伴い下記期間は、システムを停止する必要があるため、受付・診療・会計などで患者様にお待ち頂くことが予想されます。

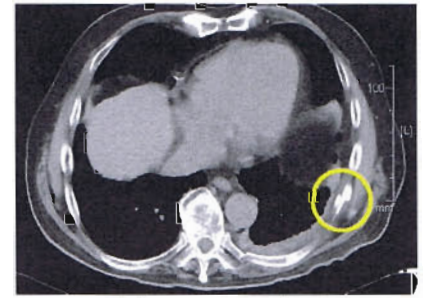
患者様には大変ご迷惑をおかけすることになりますが、何卒ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

—システム入れ換え期間—

平成30年2月10日(土) 22時
～ 2月12日(月) 12時



肋骨骨折は、胸部外傷の中で最も多くみられるものです。その原因は転倒、打撲など軽度の外力によるものと、交通事故や高所からの転落といった大きな外力によるものがあります。また、咳嗽でも骨折することがあります。大きな外力による場合には複数の肋骨骨折かつ胸郭内の肺や心臓、大血管に損傷が及ぶことが多く、基本的に高次救急での対応が必要になることが往々にあります。今回は所謂 common disease の範疇となる肋骨骨折についてお話し致します。



<胸部 CT 縦郭条件>

症状としては、骨折部位に一致した痛みと圧痛が主です。体幹を捻じる動きや、深呼吸や咳、くしゃみをする事で疼痛は増強されます。ご高齢の方や低肺機能の方などは肋骨骨折を契機に著しいADLの低下や喀痰排泄不良による肺炎などを併発し重篤なケースに至ることもあります。転倒防止など、受傷しないことが一番なのですが、完全な予防策はなく、個々の症例に準じて通院か入院加療かを判断していくことになります。

肋骨骨折自体も単純レントゲンで不明瞭なことが多く、肺挫傷や潜在性の血気胸などの病変評価も併せるとCT画像検査が有用な場合が多いです。当院では可能な限り迅速に幅広く対応しております。是非疑い症例であってもご紹介頂ければ幸いです。

「ゴッホの絵が黄色っぽい理由」

先日、研修医の先生向けのある雑誌を見ていて、こんな表題のコラムがありました。大人になっても変わったもの、変なものにすぐ興味をそそられる僕は、書類を書きかけのまま最後まで読んでしまいました。

ジギタリスによる副作用に、ものが黄色く見える黄視症というのがあるそうです。網膜の視細胞に色覚に関連する錐体細胞というのがあるのですが、光がない状態でNaの流れが発生しているそうです。ジギタリスはそのNaの流れを止めてしまうために錐体細胞の機能が低下してしまうのですが、特に赤色と緑色の色覚が影響を受けやすいため、ものが黄色く見えるとされているそうです。

僕は絵画や芸術のことは全くわからないのですが、かの有名な画家、ゴッホはてんかんを患っており、当時てんかんの治療にジギタリスが使われていたそうです。そのため、ゴッホは本来緑色の草木なども黄色く見えていたために、作品には黄色が多く使われているという説があるそうです。



参考までに文献もあるので掲載しておきます。

1. Madrperla SA, et. al. : Electrophysiologic and electroretinographic evidence for photoreceptor dysfunction as a toxic effect of digoxin. Arch Ophthalmol, 112 : 807-812, 1994
2. Arnold WN & Loftus LS : Xanthopsia and van Gogh' s yellow palette. Eye, 5 : 503-510, 1991

当院緩和ケア科に大場一輝部長が着任し、1年が過ぎました。そこで今回は、1年間の緩和ケア病棟の臨床統計を中心にご紹介させていただきます。

2017年1月1日から12月31日までの緩和ケア病棟への入棟者は183名でした。他施設からの転院受け入れは32名（17%）、在宅からの入院は92名（50%）、院内転床は59名（33%）でした。

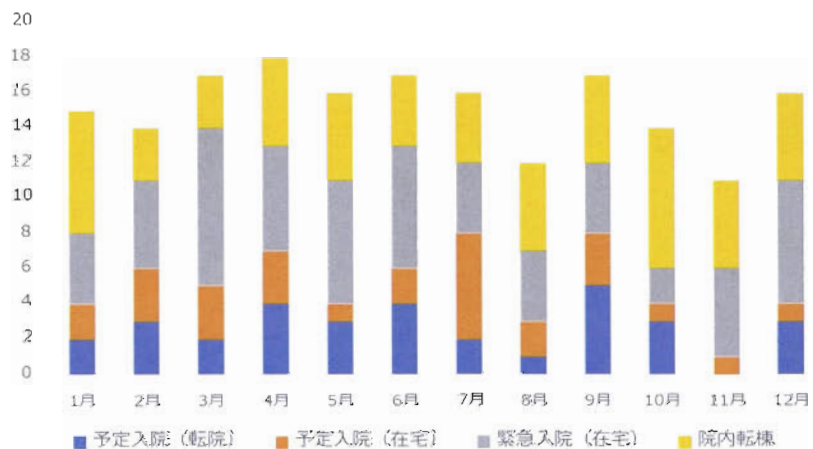
在宅からの入院依頼は緊急入院とレスパイトなどの予約入院に分けられますが、緊急入院は64名（70%）、予約入院は28名（30%）でした。さらに分析すると、緊急入院64名中、当院かかりつけは9名（14%）、在宅緩和ケアは55名（86%）でした。予約入院28名中、当院かかりつけは4名（14%）、在宅緩和ケアは24名（86%）でした。在宅からの入院依頼、そのうち緊急入院が多いことは当院緩和ケア病棟の特徴だと分かりました。それは、①在宅支援者（在宅かかりつけ医、訪問看護ステーションなど）のもと患者様ができる限りの時間をご自宅で過ごすことができている②当院地域医療連携センターと救急・総合診療部が緩和ケア病棟を支えてくれていることなどが影響しているのではないかと考えられました。

退棟者は177名で、その内訳は、看取り131名（74%）、在宅復帰42名（24%）、他施設への転院は4名（2%）でした。他施設への転院に関しては、症状コントロールが十分にされた上で生活の場としてご自宅を選択されなかった場合に、患者様とご家族様の希望を確認しながら療養型病院や老人保健施設などを紹介しました。

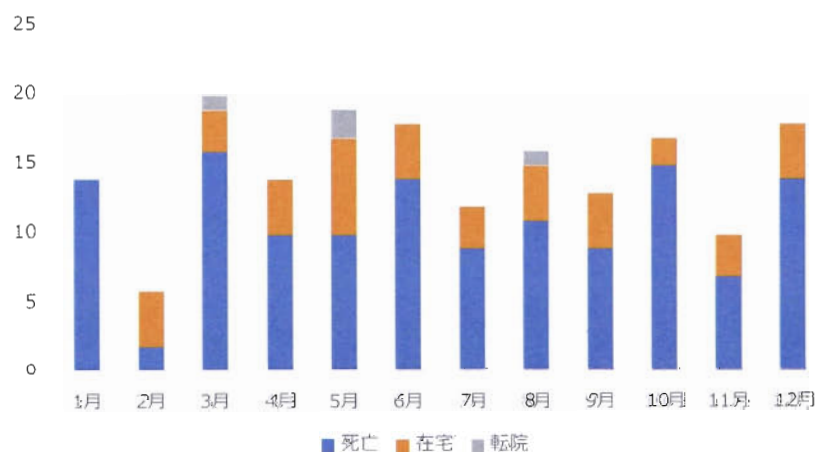
患者様の多くは、最期までご自宅で過ごすことを希望されています。今後、在宅支援の需要が増えることが予想され、当緩和ケア病棟においても患者様ご家族様の要望に応えるため、今まで以上に地域の在宅支援者とのさらなる連携強化に努めてまいります。

今後も、がん患者様ご家族の皆様をつらさを専門的にやわらげ、希望する場所での療養生活を可能にするために、がんと診断された早期から、がん相談を含め（当院かかりつけだけでなく他の医療機関の患者様・ご家族様も相談可能）緩和ケア外来・緩和ケア病棟をどうぞご利用ください。

新入院（実数）



退院（実数）



～うつらないために うつさないために～

感染症はさまざまな経路で広がります。その経路のひとつに「飛沫感染」があり、冬季に流行するインフルエンザが代表的です。飛沫感染は、咳やくしゃみにより飛沫を拡散させ流行が拡大します。日頃から「咳エチケット」を意識し、感染症を広げない取り組みが大切です。当院もポスターを掲示し、咳エチケットを推進しています。正しい「咳エチケット」で感染症を防ぎましょう。

飛沫感染で流行する感染症

インフルエンザ、風しん、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎、溶連菌感染症 など

咳エチケットの方法



マスクをする

①マスクをする
くしゃみや咳が出ている間はマスクを着用しましょう。マスクを着用していても、隙間ができていないと効果がありません。鼻と口の両方を確実に覆い、正しい方法で着用しましょう。



ティッシュなどで口と鼻を覆う

②口と鼻を覆う
くしゃみや咳をするときは、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆いましょう。ハンカチなどが無い場合は二の腕で口と鼻を覆い飛沫の飛散を防ぎましょう。



ティッシュはすぐにゴミ箱に

③すぐに捨てる
口と鼻を覆ったティッシュは汚染されています。すぐにゴミ箱に捨てましょう。



他の人から顔をそらす

④他の人から顔をそらす
くしゃみや咳の飛沫は、1～2メートル飛ぶと言われています。くしゃみや咳をする時は顔にかからないようにしましょう。



石けんで手を洗う

⑤石けんで手を洗う
くしゃみや咳などを押さえた手から、ドアノブなど周囲の物にウイルスを付着させないために、インフルエンザに感染した人もこまめな手洗いを心がけましょう。

正しく装着できている？就業前にチェック！！



鼻と口の両方を確実に覆う

ぐみも目をにらさず

隙間がないよう鼻まが覆う

- ・鼻と口は覆えているか
- ・頬や顎に隙間ができていないか
- ・マスクが濡れたり汚れたりしていないか

参考：政府広報オンライン

<https://www.govonline.go.jp/useful/article/200909/6.html>

編集後記

お正月の午後、ベランダを何気なく見ていると雀がいたので、「これは、パン粉を撒いて正面に携帯を設置し動画撮影をすれば雀がエサを食べている様をかなり間近で観察できるのではないかって？」とひらめきました！！実際の動画の2コマが、右の写真です。エサは食べているものの、中央の切り抜きのように非常に周囲を警戒して食事しておりました。おいしいものを食べる時も常に敵の攻撃を意識しなければならぬ自然界の掟、垣間見た新年早々でした！今年もよろしく願いいたします。

広報室 M



東住吉森本病院 地域医療連携センター

診察・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ
(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

地域医療連携センター長 坂上 祐司

副センター長 井内 郁代